

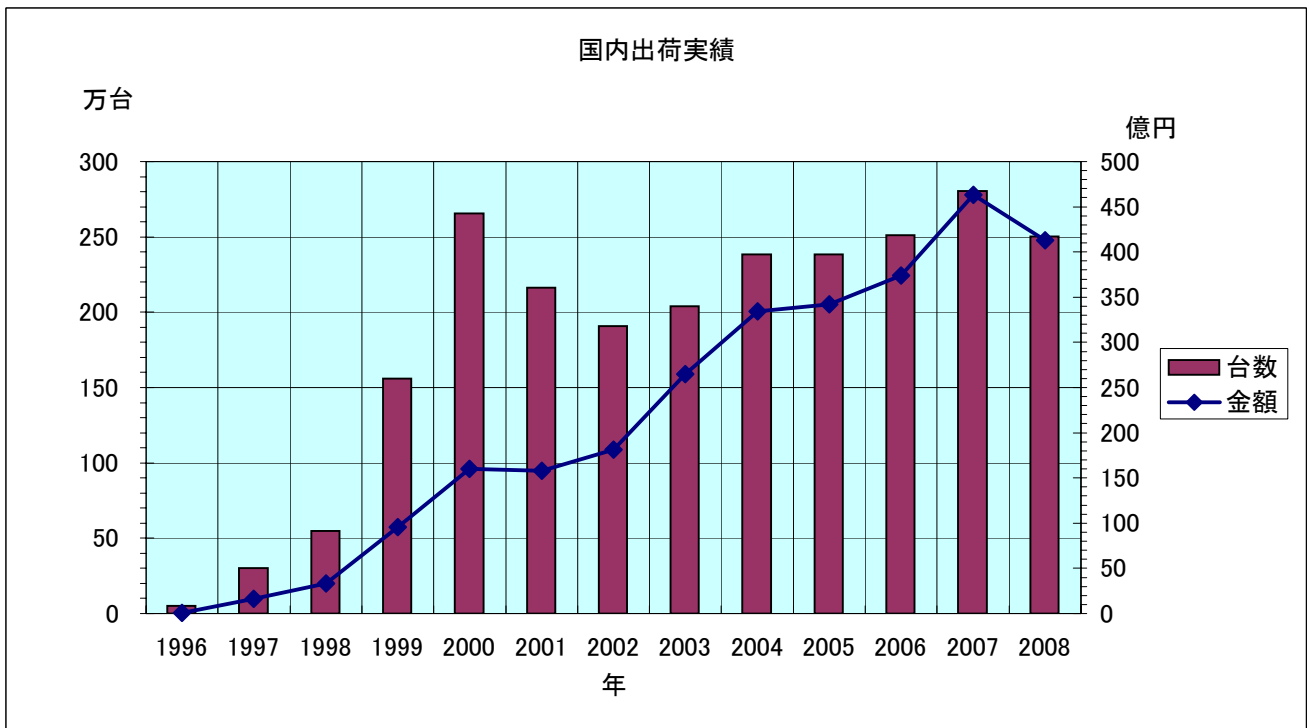
# 電子辞書の年別出荷実績推移

2009年2月25日  
社団法人 ビジネス機械・情報システム産業協会

※工場又はメーカー・販売者からの出荷台数と金額(店頭実売ではありません)

単位:千台、百万円

西暦	平成	合計				国内				輸出			
		台数	前年比	金額	前年比	台数	前年比	金額	前年比	台数	前年比	金額	前年比
1996年	8年	51	-	101	-	51	-	101	-				
1997	9	302	592.2%	1,602	1586.1%	302	592.2%	1602	1586.1%				
1998	10	550	182.1%	3,295	205.7%	550	182.1%	3295	205.7%				
1999	11	1,561	283.8%	9,577	290.7%	1,561	283.8%	9577	290.7%				
2000	12	2,660	170.4%	16,021	167.3%	2,656	170.1%	16,011	167.2%	4	-	10	-
2001	13	2,174	81.7%	15,816	98.7%	2,163	81.4%	15,794	98.6%	11	275.0%	22	220.0%
2002	14	1,909	87.8%	18,120	114.6%	1,907	88.2%	18,113	114.7%	2	18.2%	7	31.8%
2003	15	2,088	109.4%	26,907	148.5%	2,040	107.0%	26,457	146.1%	48	2400.0%	450	6428.6%
2004	16	2,525	120.9%	34,641	128.7%	2,384	116.9%	33,416	126.3%	141	293.8%	1,225	272.2%
2005	17	2,558	101.3%	35,560	102.7%	2,383	100.0%	34,183	102.3%	175	124.1%	1,377	112.4%
2006	18	2,673	104.5%	38,852	109.3%	2,513	105.5%	37,395	109.4%	160	91.4%	1,457	105.8%
2007	19	2,971	111.1%	48,371	124.5%	2,805	111.6%	46,323	123.9%	166	103.8%	2,048	140.6%
2008	20	2,650	89.2%	42,718	88.3%	2,501	89.2%	41,268	89.1%	149	89.8%	1,450	70.8%



傾向 ●2000年までは、「**スタンダードタイプ**」と称される、ハード機能も限定的で収容するコンテンツも少ない普及価格商品が主流で、2000年には全体で265万台に達しました。

●これを節目として「**本格収録タイプ**」と称する、充実したハード機能と豊富なコンテンツを収録した高付加価値商品へと需要が急速に移行したことによって、台数は一時的に減少しましたが、ユーザーニーズを的確に捉えた付加価値化によって金額規模は年々着実に伸長し、2007年には第1次のピークだった2000年の265万台を超える280万台に達し、金額も463億円へと大きく伸長しました。

●2007年は台数、金額共に大きく伸長し、2008年は低下しましたが、これは2007年に「手書き文字入力」「音声出力」「カラー化」「ワンセグTV搭載」など、技術的な革新が一挙に開花し、需要の前倒し現象が生じたと推測されます。従って、2008年の出荷減は一時的な現象であり、実売需要が飽和したわけではありません。

注1)集計期間は、1月度～12月度です。

注2)出荷統計参加企業

①2006年5月までは5社(カシオ計算機/キヤノン/シチズン/シャープ/ソニー)集計です。 ※50音順に記載

②2006年6月以降は、セイコーインスツル社が参加し合計6社。これにより、業界全体の過去実績を見直してはなりません。従って、2007年の前年比は実態以上に高く算出されています。輸出実績には影響ありません。

③2007年3月以降は5社(カシオ計算機/キヤノン/シチズン/シャープ/セイコーインスツル)の集計です。